

岡山大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）の概要

I. はじめに

政府の「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月）文部科学省の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成27年3月）及び岡山大学の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成29年3月）を踏まえ、本学が所有又は管理する施設の長寿命化に向けた取り組みを推進するため、岡山大学インフラ長寿命化（個別施設計画）を策定。

II. 個別施設計画とは

- ◆個別施設計画の目的：個別施設計画では、限られた予算の中で最大限・効果的に施設を健全に維持していくための計画を立て、社会の要望に応えることができる循環型の戦略的な維持管理等を行うことを目的とする。
- ◆計画期間：2019年から2028年の10年間とする。
- ◆対象施設：附属病院及び職員宿舎を除く全建物（349棟、延べ面積約374,000㎡）

III. 対象施設の現状把握と課題

- ◆経年30年を超える建物は計画を立てる必要があり、本学においては経年30年を超える建物（全体の20%分）の整備計画が必要である。
- ◆経年30年を超える建物の内42%が小・中規模建物（学内経費等で整備すべき建物）であり、個別施設計画において建物ごとに建物整備パターンを決定し建物のトリアージを含め計画することで整備費の抑制を図らなければならない。

IV. 個別施設計画策定の基本的な考え方

1. 個別施設計画の流れ	個別施設計画策定の流れを示す。
2. インフラ長寿命化への転換イメージ	従来の改修（事後保全）から長寿命化（予防保全）への転換を図る必要がある。
3. シミュレーション	従来60年型と長寿命80年型のシミュレーションを行い1年当たりのコスト比較を行った。結果、長寿命80年型の方が従来60年型よりトータルコストが下がることを確認した。
4. インフラ長寿命化への転換パターン	長寿命化を図るために4つのパターンの設定を行った。
5. 転換パターン分類フロー	建物の転換パターンを分類するためのフロー図を作成し分類した。
6. 長寿命化周期及びコスト試算単価	個別施設計画作成にあたり、長寿命化周期及びコスト試算単価を定めた。

V. 個別施設計画

1. 大規模建物整備	主に施設整備費補助金等による大規模建物の改修・改築の計画
2. 小・中規模建物整備	主に学内予算等で整備すべき小・中規模建物等の改修・改築の計画
3. 長寿命化修繕	主に学内予算等で整備すべき建物の部位別の修繕計画
4. 個別施設計画全体コスト	上記の計画を集計した全体コスト

VI. 今後の取り組み

- ◆大規模建物整備に関して、予算確保に努めると共に、将来の改築の大きな波が想定される為新たな対策を計画する必要がある。
- ◆小・中規模建物整備に関して、学内予算等で賄わなければならない建物の老朽化が進んでいるため、トリアージ・集約化を含めた検討を行い大学経営基盤の強化を図る必要がある。
- ◆長寿命化修繕に関して現在運用中の環境賦課金等を利用することで、好循環リノベーションを構築し、サステナブルキャンパスの推進を図り、全学的な目標でもあるSDGsに貢献する循環型の個別施設計画を作成する必要がある。